

ぼむ・ぼむ通信

No.50

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ぼむぼむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ支援活動に積極的にご活用ください。



~アンゴラ スタディツアーから~

ぼむ・ぼむ通信 50号

目次

ハイチ大地震 ~震災からまもなく1年・学校の再開と若者の参加~	1
知っとこ。ユニセフ 「募金について」	5
世界の子どもたちは今 みずと衛生 パキスタン	7
生協のユニセフ支援活動	9
* コープふくしま「ユニセフ活動とユニセフの旅」	
* ちばコープ「ユニセフデー IN マザー牧場」	
トピックス	11
* CO-OP コアノンスマイルスクールプロジェクト アンゴラスタディツアー報告	
* ユニセフの新戦略について *児童ポルノ国民運動 *ハンド・イン・ハンド紹介	
50号記念特別企画 『ぼむぼむ通信』のあゆみ	18

ぼむぼむ通信 活用のすすめ

- すべてのページをコピーしなくても、「知っとこ。ユニセフ」や「世界の子どもたちは今」を集めて、資料として活用いただけます。
- ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に、資料としてご活用いただけます。
- 店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- 生協の管理している文化センターなど、共用施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。
- 写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでの使用をおすすめします。



ハイチ大地震

～震災からまもなく1年・学校の再開と若者の参加～



© UNICEF video

はじめに

10月中旬、首都北方（アルティボニット県）でコレラが発生したことは日本でも報じられました。この地域は地震の影響が無かったので、ポルトープランスから多くの人々が避難しています。さらに11月上旬には、ハリケーン「トーマス」が襲来し、洪水によってコレラ感染が拡大、支援活動はさらに難しくなっています。現在、コレラ予防キャンペーンがハイチ全土で展開され、自分自身と家族を守るために、自分たちにできる知識や方法の普及を呼びかけています。一方で明るい話題もありました。そこで今回の報告は、首都にある小学校が再開された時の様子と、地震がきっかけとなり、若者たちに意識の変化が起きていることをお知らせしたいと思います。



新学期が始まりました



首都ポルトープランスにあるプリマチュレ避難キャンプでは、多くの人々が代わり映えのない日々を送っています。しかし、10月のこの日は子どもたちにとって、いつもと違う特別な日になりました。学校が再開したのです。

地震で自宅が壊れ、父親を亡くしてからジュディリンちゃん(6歳)は、傾斜のある泥だらけの場所の避難テントで、お母さん、お兄さん、従兄弟たちと一緒に暮らしています。そんなジュリディリンちゃんにとっても、人生で最も大事な日となりました。彼女は、生まれて初めて学校に登校したのです。

ユニセフ・ハイチ事務所のフランソワーズ・グルロース・アッカーマン代表は、「学校が再開されたことは、象徴的な出来事です。学校はハイチの未来です。支援を寄せて下さった世界中の多くの方々、そして、私たちと一緒にこの”試練”に立ち向かい、支援活動を展開してきたパートナーの団体の皆さんのが、その総力で成し遂げたことです。本当に嬉しく思います。」と、語りました。



学校の再建

ユニセフとハイチ教育省は、学校の再開を記念する式典を、セリーヌ・リラボイス学校で開催しました。ユニセフの支援を受けこの日始まった新学期に向け、24時間体制で校舎の修復作業が行われ、新たに4つの教室が設置されました。式典に参加したハイチ教育長は「ハイチ政府は今年中に、震災以前に学校に通っていた子どもたちを学校に戻すことだけでなく、全ての子どもを学校に通わせることを目標にしています。」と述べました。



学校に行こうキャンペーン

式典の中で、ユニセフのアッカーマン代表は、この日から始まったハイチの新学期をもって、「学校に行こう」キャンペーンを開始したことを発表しました。ユニセフは、ハイチ政府や保護者らと協力して、震災前に既に学校に通っていた子どもたちだけでなく、学校に通ったことのない子どもたちも学校に通えるよう支援しています。ですから、このキャンペーンは、[学校に戻ろう]ではなく「学校にいこう」キャンペーンなのです。



"大事に育てる"環境

子どもたちを大切に育てる安全な教育環境を確保することは、震災後のハイチの最優先課題のひとつです。セリーヌ・リラボイス学校では、ハイチ政府によって、全ての児童・生徒に給食が提供されています。ユニセフは、子どもと先生方のための支援の一環として、教材などがセットになった”学校キット”を提供し、年内にハイチ全土の学校約2,000校に合計約72万セットの”学校キット”が配布される予定です。

多くの子どもたちと同じように、ジュデエリンちゃんは、学校に初めて登校した日、最初は少し雰囲気になじめないようでしたが、学校の安心できる環境にすぐ居心地のよさを感じたようです。継続的な支援によってこどもたちが、基礎教育を修了し、よりよい未来を築くことが期待されています。

[2010年10月5日 ハイチ発]





若者の参加で、今までにない取り組みが始まりました



9月のある日、首都ポルトープランスで、「子どもと若者の参加運動—子どもたちのための変革に向けた課題ー」と題し、ユニセフの主導で行われた会議に、50人の若者が参加、自分たちの意見を表明しました。社会、環境、経済に関して論議したほか、ハイチの将来における若者の役割についても話されました。

この参加運動によって、11月末の大統領選挙を前に、討論会、フォーラム、会議といったさまざまな形で、彼らの希望や要求を訴える機会が与えられる事になりました。



投票の季節

会議に参加した多くの若者たちが、地元や国のリーダーに対し、政策決定においても子どもたちの声に耳を傾けることの必要性を強調しています。

「私たちのリーダーたちは、現在のハイチの子どもたちが生活している状況について知る必要があります。そうすることで、政策の中に子どもたちへの支援を反映させることができます。」
(ラクソン・ジュリアンさん)

「私たちはこれ以上の鉱物の過剰な採取や森林破壊、侵食を防ぐことを決意しています。今こそ、汚染と無関心の両方に終止符を打つときです。」(マリエ・モイス・ルイスサントさん)

ユニセフのアッカーマン代表は、ハイチの人口の半数近く、約430万人が18歳未満の子どもたちであるという単純な事実が、ユニセフがこの会議を実施するに至った理由の一つであると述べました。

「現在、大統領の立候補者は19名です。」アッカーマン代表はさらに1月の大地震について言及した上で、「ハイチ復興・再建活動を行っている政府の委員会もあります。」とも語り、「若者や子どもたちが一丸となって意志を表明することができるよう、また、彼らにハイチの復興・再建活動において果たすべき役割を与えるために、私たちが他の人道支援団体やハイチ政府を支援しなければならない。」と述べています。



新たな優先事項

大地震によって、ハイチでは多くの若者が、強い政治意識を持つようになりました。ボーアスカウトのメンバーでもあるハンリー・カリザイレさん(17歳)は会議で、今までハイチの若者に影響を及ぼす政策が決定される際、自分たち若者の意見が除外されすぎてきたと話ました。「私たち若者はこのような状況を続けることはできないと、「NO」と言いましょう。これは変えるべき事です。」それからハリーさんは、小さなビジネスを行うためのマイクロクレジットの拡大や、職業仲介所を通して雇用を促すといった、政府がより雇用を生み出すための提案も発表しました。



© UNICEF/HTIA2010-00405/Ramoneda



今こそ行動を

アッカーマン代表は、若者の熱意は驚くべきものだと指摘します。しかし、若者たちが置かれている状況は不安定なままで、最も人数の多い年齢層でありながら、最も弱い立場の世代なのです。会議に参加した若者は「経済的な問題があり、専門的な資格を取得するのも難しいし、失業や基礎的な社会サービスへのアクセスが困難なこと・・・たくさんの問題があります。だから皆さんに市民としての意識と責任を持ってほしい。」そう語りました。

[2010 年 9 月 14 日 ハイチ発]

ハイチ地震緊急・復興支援募金

ユニセフはハイチでの活動資金として 1 億 7,275 万 7,000 米ドル（日本円で約 158 億 9,400 万円）の支援を国際社会によりかけています。日本ユニセフ協会でも引き続き募金を受け付けておりますのであたたかいご支援よろしくお願ひいたします。

郵便局（ゆうちょ銀行）振替口座：00190-5-31000

口座名義：財団法人 日本ユニセフ協会

通信欄に「ハイチ」とご明記ください。

* 送金手数料は免除されます。



知りたい？ 知っとこ。ユニセフ募金について ③

街頭募金で募金箱に、生協注文用紙を利用してなど さまざまな方法でご協力いただいているユニセフ募金ですが 今回はその種類や方法、協力のしかたなど具体的なことをまとめてみます。

募金には どんな種類がありますか？

-  **一般募金** 子どもたちを守るユニセフの活動を支えます。
-  **指定募金** 特定の活動分野や地域を指定して支援します。
-  **緊急募金** 紛争や自然災害などから子どもたちを守ります

一般募金

保健、栄養、水と衛生、教育、子どもの保護など、150以上の国と地域でおこなわれているユニセフの活動全体を支え幅広く使われています。

細かく募金の使途が限定されてしまうと、現地の支援活動の効率性を弱めてしまう場合もありますが、一般募金ですと特定の使い方が決められておらず、柔軟性のある予算として、特にマスコミの注目を浴びない国々でのユニセフ支援活動、アドボカシー活動などにも使うことができます。

指定募金

相当規模の支援（原則として 最低3年単位 年間10万米ドル以上）を約束できるときは、特定のプロジェクトを指定することが可能です。企業・団体・個人からの支援についてもこの基準に準じます。

現場のニーズをもとに、支援する国とプロジェクトを支援者が選び募金できるので、その使途がよりわかりやすくなります。

生協の指定募金

募金する国と、支援プロジェクトを指定するもので、募金の使い道がわかりやすくなり、また相手国をより知ることで理解が深まることになります。

指定募金に取り組んだ生協では組合員の募金への関心がいっそう高まりました。

これまでに支援した国は インド・ベトナム・東ティモール。

引き続き支援されている国は ラオス・ネパールです。

また 最近では商品を買うとその一部が募金される形の指定募金もあります。

ハッピーミルクプロジェクト・モザンビーク栄養支援プロジェクト指定募金・コープネット事業連合

みるくぼきん・アフリカ（マラウイ）教育支援プロジェクト指定募金・ユーコープ事業連合

CO・OPコアノンスマイルスクールプロジェクト・アンゴラ教育支援プロジェクト指定募金

CO・OP コアノンロール（トイレットペーパー）を1パックお買い上げいただく度に、アンゴラ共和国の「子どもにやさしい学校づくり」のために1円が募金されます。期間：2010年11月1日～2011年10月31日

緊急募金

地震や津波、洪水、台風などの自然災害や、紛争で被災した子どもたちに早く支援を届け、日常生活の早期回復を目指すユニセフの緊急・復興支援活動を支える募金です。自然災害や紛争などの緊急事態が起こった地域で、被害にあった子どもたちのための緊急支援に使われます。

現在（2010年 12月） 緊急・復興募金として

ハイチ地震・アフガニスタン・パキスタン・アフリカ・自然災害・人道危機などの項目で受け付けています。自然災害は地震、津波、洪水、台風サイクロン、干ばつなど被災した人のために、世界各地で緊急、復興支援活動を行っています。保健キット、食料、水、シェルター、救援物資など。忘れられた自然災害を支援します。人道危機は武力紛争の被害者を迅速に支援します。

協力する方法は？

ホームページからも募金できます。



募金の送り方には・・（http://www.unicef.or.jp/cooperate/coop_send.html）

（郵便局より送金、またクレジットカードで、インターネットバンキングで、電子マネーで、コンビニエンスストアで などの方法もあります。）



ユニセフのカード・ギフトを購入することで その50パーセントがユニセフ活動資金になります。



マンスリー・サポート・プログラム 一定額（ご自由にお決めいただけます）を毎月自動振替でご協力いただけるプログラム 長期的な視野に立って子どもたちの成長と自立を支援するユニセフの活動を力強く支えます。

こんな募金方法もあります

（http://www.unicef.or.jp/cooperate/coop_other.html）

ユニセフ外国コイン募金・遺産のご寄付・香典、お花料からのご寄付・お祝いからのご寄付・提携クレジットカードを利用・店舗に募金箱を設置・ポイントを応募する・募金活動を企画・実施・企業の支援キャンペーン・家電エコポイント・住宅エコポイントなど

生協では お年玉募金・緊急募金など おもにOCRを利用して募金できます。

店頭募金箱 年末の「ハンドインハンド募金活動」など





世界の子どもたちは今



水と衛生 パキスタン



© UNICEF/Pakistan/Martin

今年7月末、パキスタン北西部を襲った大規模なモンスーンは、豪雨と洪水をもたらし、国土の5分の1が水に浸かり、2,030万人が被災するという過去数10年間で最悪の被害を出しています。ここは洪水が発生する以前から武力紛争で、すでに人道支援が必要な状況だったので事態はさらに悪化し、複雑になっているのです。



『水』の支援が遅れれば、この汚れた水を飲み続けることになり、これから下痢やコレラ、赤痢、寄生虫などの病気の広がりが心配されています。



パキスタン緊急募金情報 深刻な資金不足に直面するユニセフの活動

国土の5分の1が浸水し、2,030万人が被災。過去数十年間で最悪の洪水被害に見舞われたパキスタンの再建と復興は、今後数ヵ月間では終わらず、相当長期にわたり続けられる必要があります。学校約1万校、農村部の保健センター450棟が洪水被害を受け、他の社会インフラも多大な影響を受けました。



© UNICEF/NYHQ2010-1637/Ramoneda



ユニセフの活動は深刻な資金不足に直面しています。「12月31日を過ぎても追加の資金が確保できなければ、70万人の子どもを含む140万人が清潔な飲料水を飲むことができなくなり、運河や溜まった洪水の汚染された水を飲み始めることになります。」(アレン副代表)

日本ユニセフ協会では、緊急募金を受け付けております。みなさまのご協力をお願いいたします。

<パキスタン緊急募金>

郵便振替：00190-5-31000

口座名義：財団法人日本ユニセフ協会

*通信欄に「パキスタン」と明記願います。

*窓口からの振込みの場合、送金手数料免除

*当協会への募金は寄付金控除の対象となります。

なお、当緊急・復興支援に必要な資金を上回るご協力をいただいた場合、現在行われている他の緊急・復興支援に活用させていただくことがありますので、ご了承願います。

全国の生協では緊急募金に取り組まれています。

コープさっぽろ、みやぎ生協、コープふくしま、いばらきコープ、パルシステム茨城、ちばコープ、パルシステム千葉、さいたまコープ、東京都生協連、コープとうきょう、パルシステム東京、生活クラブ生協・東京、ユーコープ事業連合、コープかながわ、パルシステム神奈川ゆめコープ、市民生協やまなし、コープしずおか、コープながの、コープにいがた、新潟県総合生協、コープぎふ、コープみえ、ならコープ、京都生協、大阪北生協、コープこうべ、おかやまコープ、コープかがわ、コープみやざき、コープさが、コープかごしま

生協のユニセフ支援活動 Partnership



コープふくしま ユニセフ活動とユニセフの旅

コープふくしまでは、資料によれば1984年に「ユニセフ委員会発足」翌年に「ユニセフ募金開始」とあります。以来、ユニセフ活動として募金の呼びかけ、「ユニセフのつどい」「ユニセフだより」の発行等を行っております。

2009年度は「ユニセフすごろく」を作り、それを持って「ふれあいコープ出前講座」を行いました。6月には「ユニセフのつどい」(ユニセフすごろくとネパールカレー作り)を、12月にはキッズクラブと合同で「クリスマス会」を開催。親子で参加した皆さんにビデオやすごろくでユニセフのことを知ってもらい、ルワンダカレーとなめらかプリンの調理と会食をして、楽しいひと時をご過ごしていただきました。

また、募金活動は9月と2月の一般募金、フィリピン・スマトラ・サモアとハイチ大地震の緊急募金、12月のハンド・イン・ハンドに取り組みました。



2010年度は組合員に呼びかけ、ユニセフハウス見学の旅を実施しました。9月30日(木) 総勢45名がバスで出発しました。ホテルで昼食(バイキング)をとり、ユニセフハウスを見学。ボランティアの方の説明を聞きながら、支援の実際を目で見ることができました。

* 参加者の感想 *

- 毎年ユニセフ募金をしていますが、詳しく知らないこともあります。今回、案内してくれた方が親切に説明してくれて大変良くわかりました。まだまだわたしたちの助けを必要としている人達が居ることを知りました。
- ユニセフの活動、支援の状況が具体的に示され大変良かったと思います。
- 戦後ユニセフからの物資で脱脂粉乳による給食が週3回ほどあったのを思い出しました。

最後になりましたが、これからも世界の子供たちのために少しでもユニセフの活動ができればと思います。そして、それを後の人にもつないで行きたい。ユニセフが必要でなくなるのを願いつつ。



ちばコープ ユニセフデー IN マザー牧場



ちばコープ・マザー牧場・(財)日本ユニセフ協会千葉県支部の合同企画による「ユニセフデー IN マザー牧場」が、8月25日(水)～8月31日(火)、マザー牧場・多目的ホールで開催されました。8月29日(日)にはユニセフ子ども広場も行われ、パネルクイズラリーやユニセフすごろくなど、多くの方々が参加してくださいました。

募金額 34,042円(ブルキナファソ衛生募金)

ユニセフカード等の取扱い 19,100円

パネルクイズラリー参加者 400名

ユニセフクイズラリー：8月25日～31日

パネル展 同時開催：7月30日～8月31日

- アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使のブルキナファソ視察報告 -

生活協同組合ちばコープ理事 西山さんより

この2年間、マザー牧場での「ユニセフラブウォーク」のお手伝いをさせていただきましたが、今年はちばコープとしてもっと主体的に関わった何かをしたいと思い、今回の企画となりました。ちばコープと日本ユニセフ協会千葉県支部、マザー牧場の三者で何度も話し合いを重ねる中で、マザー牧場の担当者の方にも「なぜ、ちばコープがユニセフの活動を応援しているのか」を理解していただけたことは嬉しいことでした。



当日はコープデリキャラクターのほぺたんも応援に駆けつけてくれ、マザー牧場の来場者に声かけをしてくれたり、ちばコープのスタッフも一生懸命ちらしを配って案内してくれたおかげで、予想以上に多くの方が子供広場に足を運んでくれました。親子でわいわいいいながらスーパーボールすくいを楽しんでいる家族の様子や、私たちががんばって作ったユニセフパネルクイズに真剣に取り組んでくれている親子やカップルの姿を見て、私達もうれしい気持ちになれました。関わって下さった全ての皆さんに感謝の気持ちで一杯です。

マザー牧場 エンターテイメント課 渡辺周一さんより

今回、「ユニセフデー IN マザー牧場」を開催するにあたって考えたことは、如何により多くの人にユニセフを知ってもらい、なおかつお客様にマザー牧場の雰囲気のまま楽しんでいただくかということでした。

ユニセフ様との行事は今まで歩け歩け大会でのラブウォークや牧場内での単独ラブウォーク等がありました。それぞれが良い行事だったと思いますが、参加者も少なめで、ユニセフを知ってもらう仕掛けも足りない気がしていました。

今回の「ユニセフデー IN マザー牧場」はユニセフ様やちばコープ様と打合せを重ね、過去の欠点をかなり克服することが出来たと思っています。期間も一週間と長く、またアグネス・チャンの写真パネル展も一ヶ月近く展示することができました。ユニセフクイズラリーも楽しみながらユニセフを知る仕掛けが良く出来っていました。なにより8月29日の「ユニセフ子ども広場」はイベント性も高く、子どもからお年寄りまで楽しめるものでした。

より多くのお客様がより楽しくユニセフを知ることができたと思っています。また会場となった無料休憩所もより充実した場所になったと思います。頑張っていただいたユニセフやコープのスタッフの方々には本当に感謝しております。ありがとうございました。



CO-OP コアノン スマイルスクールプロジェクト



CO-OP コアノンロール(トイレットペーパー)を1パックお買い上げいただく度に、
アンゴラ共和国の「子どもに優しい学校づくり」に1円が募金されます。

アンゴラに届くまで



1パックにつき1円が
ユニセフを通じて
アンゴラ共和国に



楽しく学べる環境
づくりに使われます



アンゴラってどんな国?



アンゴラは、大西洋に面した、アフリカ南西部にある人口1,827万人の共和国です。30年間にわたる内戦が2002年に終結しました。しかし、5歳になる前に命を落とす子どもの割合は約5人に1人、初等教育の就学率は66%ですが修了率は35%と、衛生や教育面で多くの課題が残っています。学校には、安全な飲料水と衛生的なトイレ、資格をもった教員、適切な教材、地域の大人の支援などが必要です。プロジェクトの募金は、これらの「子どもに優しい学校づくり」のために使われます。



(C)UNICEF/HQ07-1750/Christine Nesbitt

どんな支援ができるの?

学校は建物だけでは成り立ちません。なかみの支援が大切です。「子どもに優しい学校づくり」では、すべての子どもたちが安心して楽しく学校に通い、質の高い教育が受けられることを目指しています。

● 先生がいる

子どもたちがより楽しく効果的に学習できるように、学校の先生を育成します。例えば、コミュニケーションを大切にした授業をするための研修を行います。

● 安全な学校をつくる

清潔なトイレづくりや手洗いの啓発などにより、保健・衛生状況を改善します。また、ジェンダー、暴力について理解を深めるため、子ども、教員、校長先生、コミュニティメンバーを対象に特別授業を行います。

● 手押しポンプをつくる

きれいなトイレ用水やしっかり手洗いができる量の水を確保するために、水タンク付きの手押しポンプを設置します。

● 地域コミュニティが参加する

アンゴラでは、親にとって子どもは貴重な労働力であり、大人が教育の大切さに気づかなければ、子どもは学校に行かせてもらえない。地域コミュニティに教育の大切さを伝え、PTAを運営できるようトレーニングを行います。

● 学校経営を強化する

校長先生は、学校の成功の鍵を握る重要な立場にあります。そこで、校長先生に基礎経営と企画技術を身につけてもらうスキルアップ研修を実施します。

プロジェクト対象商品

co-op コアノンシリーズ 他にもいろいろな種類があります。
掲載商品は一例です。



ゴミとして捨てられるだけの芯を省き、組合員さんから回収した牛乳パックなど、再生リサイクルパルプを100%使用しています。組合員さんのエコ意識から生まれた商品です。

日本生協連「生協のユニセフ支援活動」ホームページがオープンしました

生協とユニセフの関わりや全国の生協の取り組み、スタディツアーの様子などを紹介しています。 URL:<http://jccu.coop/unicef/>

CO-OP コアノンスマイルスクールプロジェクト専用ページも設けています。
URL:<http://jccu.coop/unicef/smileschool/index.html>

ぜひご覧ください！





2010 ユニセフ アンゴラ スタディツアーレポート

2010年11月20日～27日、アンゴラ共和国において、4つの小学校を視察しました。首都ルアンダ(6009校)と、地方であるクネネ州の、遠隔地(ナマヤカ校) 農村部(オシカティ校) 都市部(サンタクララ校)の4校です。



ナマヤカ小学校(クネネ州、遠隔地。児童数300人、先生5人)



木の下の教室

「ここが学校です」と案内されたところは、何もない原っぱでした。ナマヤカ小学校には建物はなく、木陰が教室で、丸太のベンチに座って授業を受けています。児童300人に先生5人と、先生の数が足りておらず、水道やトイレはありません。半数近くの子どもたちは、将来先生になりたいと話してくれました。子どもたちは、朝は3時か4時には起きて、4～5キロ離れたところへ水汲みに行き、家事を手伝ったりしてから学校に来るそうです。



人々の生活 ナマヤカ小学校周辺の地域では、人々はひとつの一族ごとに暮らしています。家の周囲は高い木の柵で取り囲まれてあり、ライオンやヒョウなどの野生動物から身を守っています。この日家にいたのは女性と子どもたちだけで、男性は毎日狩りに行くそうです。トイレはなく、好きなところで用を足します。水道や電気はありません。お母さんは、今後さらに学校が充実することを望んでいると話してくれました。



一族で暮らす集落



算数の授業の様子

オシカティ小学校(クネネ州、農村部。児童数556人、先生4人)

アンゴラでは集落の単位で生活しており、教育を充実させるためにはまず地域のリーダーと話をする必要があります。この集落では、ユニセフは村長の理解を得て、プロジェクトを進めています。村長のエマニュエルさんは、「アンゴラの発展のために教育はなくてはならないもので、ユニセフの支援を機に充実させられることにとても感謝しています」と話されました。集落の人たちは、学校の建物や運動場、花壇などを作るときには協力したいと話しており、学校の運営にとても積極的でした。



「学校が楽しい」と話してくれた子どもたち

サンタクララ小学校(クネネ州、都市部。児童数2,715人、先生48人)

この学校では、周辺住民が電球などの備品を勝手に持ち帰ることが問題となっており、ユニセフは安全な環境で子どもたちが学べるよう支援していく予定です。学校ではPTAが組織されており、電球などを持ち帰る住民

に対しては、自分たちの子どもから電気を奪っているということをわかってもらうよう働きかけています。安全な環境のためには、地域全体に教育の重要性を認識してもらうことが欠かせません。



どの小学校でも、子どもたちは「学校が楽しい」と話してくれました。大人たちは、子どもたちが安心して学校に通い、充実した教育を受けられることを望んでいました。



錆付いた戦車

アンゴラでは 30 年間続いた内戦が 8 年前（2002 年）に終わり、道を走っていると錆びついで放置された戦車をいくつも見かけました。アンゴラは平和が訪れてから本当に間もない国であり、何もかもがスタートしたばかりです。

学校では、勉強だけでなく、文化や道徳、生活習慣、HIV も含めてきちんと子どもに教えることが重要です。しかし、視察した 3 校をはじめほとんどの学校では、先生の数が足りず、設備等も含め教育環境は整っていないのが現状です。



6009 小学校（首都ルアンダ。児童数 1,500 人、先生 40 人）

首都ルアンダにある小学校で、1 年前に新校舎ができました。今後の支援のモデル的な小学校になります。先生の数は十分に足りており、トイレが 2 ヶ所（男女別）、水道をひねると水が出てくる手洗い場が 2 ヶ所あります。校舎の壁に、手洗い・うがいをよびかける絵やポスターが掲示されており、子どもが学んでそれを親に伝えています。この地区では戦後、人々が好き勝手に家を立てて住むようになったため、コミュニティの形成がうまくいっておらず、学校を建てるこことにより、学校から地域へ衛生管理情報などを発信しています。



廊下の壁に書かれた、手洗いなどをよびかける絵

アンゴラは石油やダイヤモンドの産出により経済発展が目覚しい一方、地方では水道も電気もなく、人々は弓で狩りをし、雨季には飢餓が起こるという生活をしています。また、農村部の中でも、今回視察した 3 つの地域のように、経済的に豊かなところとそうでないところでは格差があります。一方、首都ルアンダの中でも、豊かな生活をしている人はほんの一部で、ほとんどの人は狭く不衛生で電気や水道のない家に暮らしています。



アンゴラの経済発展だけに目を向けていると、今回わかったような教育や保健・衛生の課題は見えません。今回の視察では、地域ごとに課題があり、教育環境が不十分な現状と、地域コミュニティの参加による教育や保健衛生分野の改善が必要であることを確認できました。

ユニセフでは、今回視察した 4 つを含む 12 の小学校において、「子どもに優しい学校」プロジェクトを進める予定です。CO・OP コアノン スマイルスクールプロジェクトで寄せられた募金は、12 校のうち、いくつかの小学校において、教員の育成、地域コミュニティの参加、衛生環境の改善、手押しポンプの設置等に充てられる予定です。



ユニセフが実施しているプロジェクトで、すべての子どもたちが安心して楽しく学校に通い、質の高い教育が受けられるように、包括的な支援を目指しています。

【参加された方の感想】 子どもたちはみんな「学校が楽しい」と答えてくれました。将来の夢もしっかり持っている子どもたちに接してみて、どのような環境に置かれていても教育を受ける権利があり、そのための環境整備は必須だと強く感じました。ハード面はもちろんですが、今回の「子どもに優しい学校」プロジェクトでのソフト面の実行も大いに期待したいです。それには、まず少しでも多くの人々にアンゴラの現状を知ってもらい一緒に考え、支援の輪が広がることを願います。



ユニセフの新戦略

http://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_mid_mdg.html

最も困難な状況の子どもたちに焦点を当てることが、MDG 達成への近道

ユニセフは、2010年9月7日、ミレニアム開発目標に関する2冊の最新の報告書を発表しました。最も困難な立場に立たされている子どもたちやコミュニティーへの支援を最優先すれば、何百万人もの命を救うことができると訴え、ミレニアム開発目標（MDGs）の達成に向けて課題となっている「深まっている格差」の是正にも繋がると指摘しています。



「調査結果は、最も貧しく最も困難な立場にある子どもたちへの支援に重点を置くことは、費用効率が悪いとする従来の考え方には、異を唱えるものです。『公平性に重点を置いた戦略は、『原理としての正しさ』という道徳的な面のみならず、『現実面での正しさ』というさらに魅力的な成果をもたらすものです。』ユニセフのアンソニー・レーク事務局長はこう語っています。

© UNICEF/NYHQ2008-1197/Holt
コンゴ民主共和国北キブ州の州都ゴ
マにある孤児院で。

今回発表された主な調査結果：

- 公平性（格差の是正）に重点を置いたアプローチは費用対効果が高く、他のアプローチと比較して、子どもや妊産婦の死亡数および発育阻害数を大幅に削減することができる。
- 死亡率の高い低所得国で、5歳未満児死亡数を削減するために100万米ドルを投資した場合、公平性に重点を置いたアプローチを用いると、現行のアプローチよりも削減できる死亡数がおよそ60%上昇する。
- 疾病や健康への悪影響、非識字といった国の問題が、最も貧窮した子どもたちに集中している。これらの子どもたちに医療や保健、教育などの必須の社会サービスを提供することにより、MDGs達成への歩みを大きく加速することができ、国内の格差を縮小することができる。

「ミレニアム宣言は、世界で最も困難な条件に置かれている人々の生活を改善することを目的としています」「私たちはこれらの調査結果が、私たちがMDGsを達成するために、そして、何百万人もの脆弱な子どもたちの生活を改善するために、私たちの力になってくれるものと考えています。（レーク事務局長）



児童ポルノがない世界をめざして

10月5日、日本ユニセフ協会は、ユニセフハウス（東京、港区）にて、「児童ポルノがない世界を目指して」国民運動の第一回報告会を、同運動賛同団体向けに開催しました。

近年の携帯やインターネットの普及によって、誰もが児童ポルノを手に入れることができ、また一瞬にして大量コピーされて世界中にはばらまかれています。被害は、撮影時に留まらず、ばら撒かれた映像を誰かが持っているかもしれない、見ているかもしれない…被害者は、こうした不安と恐怖に一生苦しめられています。こうした被害をなくすためには、児童ポルノの購入や、入手、単純所持も禁止するなどの法改正が不可欠です。そのために、同協会では、「児童買春・児童ポルノ禁止法」の早期改正を求める要望書を国会に提出すべく、署名活動を始め、協力を訴えました。

国民運動が目指すものとしては、

- ・ 児童ポルノを「見ない」「買わない」「持たない」「作らせない」
- ・ ブロッキングの早期実現
- ・ 被害を受けた子どもたちの保護や支援の早期確率
- ・ 取締りの強化
- ・ 法改正の早期実現

以上の5点です。

写真を持っているだけでは、取り締まれない現在の方のために、被害に遭った子どもたちは、自分の写真がどこで、誰に見られているか？いつも怯えて生きています。

児童ポルノは、他人事ではなく、誰でも被害と隣り合わせの状況です。いつ自分の子どもが被害に遭うかもわかりません。というのも、加害者は、親や、親戚である場合もあり、盗撮も含めると、いつ誰に、撮影されているのかわからないのが、現実なのです。（また、被害は男女問わず起こっています。）

安心して、子育てをしていく上でも、現行法改正の早期実現を求めていきます。

2010年12月末まで、署名を募集しています。署名用紙（要望書）のダウンロードは、ユニセフ協会HPからできます。また、受付方法等も詳細に掲載されています。

HP：児童ポルノがない世界を目指して <http://nakuso.jp/>

日本の子どもたちの未来のために、是非ご協力をお願いします。



第32回ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金

<http://www.unicef.or.jp/cooperate/handinhand/index.html>

今年のテーマ

「届けたい。すべての子どもたちに “いのちを守る方法”を」

世界には、予防接種といったような「いのちを守る方法」に出会うことなく一生を終える子どもたちが存在しています。開発途上国では、最も厳しい状況にいる20%の世帯の5歳未満の子どもたちの死亡率は、最も豊かな20%の世帯の2倍以上に達すると言われています。予防接種が受けられたら、経口補水塩を摂ることができたら…。「いのちを守る方法」に出会えていれば、支援が届いていれば、もっと多くの子どもたちを助けることができます。一人ひとりの命は等しく大切なものです。すべての子どもたちが等しく支援を受ける権利があります。



©UNICEF/NYHQ2006-0870/Estey

第32回ユニセフハンド・イン・ハンド募金は、こうした「命の格差」をなくし公正な世界を実現するため、みんなの"手と手をつなぐ"ことを目指して展開していきます。

ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金とは

ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金は、世界の子どもたちの幸せと明るい未来を実現させるため、市民一人ひとりがボランティアとして参加する身近な国際協力活動です。

1979年の国際児童年に始まり、今年で32回目を迎えます。参加方法はみなさまのアイディア次第！日本中で、さまざまな機会、さまざまな場所で、ボランティアのみなさまが主体となって、周囲にユニセフ募金を呼びかけていただくものです。ハンド・イン・ハンド募金を通じて、私たちの思いを世界の子どもたちへ届けましょう！

事前にお申し込みが必要です（https://www2.unicef.or.jp/jcuApp/hand/hand_order.jsp）

11月と12月がハンド・イン・ハンド実施期間です

毎年12月23日(祝)を全国一斉活動日としていますが、11月と12月の都合の良い日に実施することができます。また、活動日は1日だけではなく、11月あるいは12月中であれば、何日間おこなっても構いません。

50号記念

特別企画 『ぽむぽむ通信』のあゆみ



まず、いつからはじまったんだっけ？



生協とユニセフ協会の架け橋となる通信誌を作ろう！という事で
1997年4月からスタートしたのよ。



編集委員はどうやって集まつたの？



ユニセフの担当職員が生協組合員から募集して始まつたのよ。
あとから参加してくれた人もいて、一緒に作つてゐるの。



『ぽむぽむ』の名前はどうしてついたの？



『ぽむ』ってフランス語で「りんご」のことなんだって。かわいいでしょ？
ぽむぽむと夢がふくらむ。希望があふれる。編集スタッフの意見・異見が、ぽむぽむと飛びだす・・・
こんなたくさんの楽しい意味がこめられているの。



そっか～。で、ぼくたちは、いつから出てるんだっけ？



ええ～と・・・1999年の7月号からだから、もうベテランね！
二人で旋風を巻き起こすって事で『せん』ちゃんと『ぶう』ちゃんになったんだよね！



うん！ぼくも12号から登場したよ！名前は『ボム』！



『ぽむぽむ通信』は21号までは日本ユニセフ協会より、22号からは日本生協連が発行してゐるんだよ！
2004年度から、印刷物ではなく、ウェブサイトでのPDFファイルで発行されるようになったんだ。

そうそう、ユニセフハウスも新宿から品川に移転したし、
いろいろ歴史を感じるな～。

これからも世界の子どもたちのためにがんばろう！！

『ぽむぽむ通信』第一号



『ぽむぽむ通信』

http://www.unicef.or.jp/partner/hokoku/partner_pom.html

日本ユニセフ協会ホームページより 団体によるご協力の事例 生活協同組合によるご協力 生協ユニセフ通信
『ぽむぽむ通信』で検索してね！

色々な国の人々や、お料理の
コーナーもありました！

ぼむぼむ広場

編集後記

洪水が起きたパキスタンで、ユニセフの資金が不足しています。国際社会に求めた当面の活動資金が思うように集まらないのです。飲み水の確保や北部の冬の備えなど、時間が無いのです。時間が無いといえば、2000年の中華人民共和国・サミット(MDG)で世界の首脳たちは、2015年までに8分野20項目(1日1ドル未満で暮らす最貧層人口の半減や、5歳未満児死亡率を3分の1にすることなど)の数値目標の達成を宣言しました。その“約束”的期限まであと5年と迫った今年の9月、国連ミレニアム開発目標(MDGs)サミット首脳会合の場で、首脳たちは5年後の達成は“ほど遠い”ことを認めざるを得なかつたようで、400億ドルの途上国支援を決めましたが、数値目標は「母子の健康改善」などに絞って達成を目指すそうです。(浜崎)

ユニセフ*コープネットワーク



No.50 2010年12月15日発行

編集 グループ ぼむ・ぼむ

スタッフ・編集 / 相澤・尾澤・谷杉・浜崎・福本・
藤森・松本・山本・谷口・朝倉

イラスト / 蟻沢

発行 日本国協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷3-29-8 コーポラツク11F

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://www.jccu.coop/>

ぼむぼむ通信第50号をお届けします。

ハイチ特集では、子どもたちの明るい話題をお届けします。11月からスタートした「CO-OPコアノンスマイルスクールプロジェクト」と、アンゴラスタディツアーの報告もぜひご覧下さい。記念すべき50号ということで、特集ページを設けました

全国の活動事例や、ぼむぼむ通信の感想・ご意見をお待ちしております。

次号は、2011年3月15日発行予定です。